

地域女性活躍推進事業【大田原市】

地域の実情と課題

保守的で、改革や新たな取り組みが苦手な地域性のため、男女共同参画の意味は理解していても地域社会においては未だ男性社会である。また、政策方針決定の場への女性の参画も特定の人に限定されている実情である。

真の男女共同参画社会、ワークライフバランスのとれた生活を目標に各種講座等を開催してきたが、受講者が固定化してしまい、広く多くの市民への普及につながらないことが課題となっている。

事業の特徴

大学生・高校生を対象に在学中から女性が輝く社会づくりの国の方針の下、キャリアアップにつながる研修を実施し、ダイバーシティに向けた取り組み。

研修を産学官連携で実施することで、市全体で女性の活躍推進に向けた環境づくり。

事業の効果

○高校生・大学生8名にボランティアスタッフとして企画運営に関わっていただき、男女共同参画に対する考えを多面的に捉え、若者としての意見を持ってくれたこと。今後選挙権が18歳まで引き下げられるが、政治に興味関心を持ち、将来的に政策決定の場へ参画していただくことを期待したい。

○商工会議所を通じ企業が市の講座に積極的に参加したことで、男女共同参画事業のみならず、市と企業が協働で他の事業へ取り組む動機づけになった。

○事業を産学官連携で実施したことで、女性活躍推進に向けた社会環境づくりにつながった。

目的・目標

全国的に出産後の離職率が改善しない現状や市の政策決定の場への参画がまだまだ少ない状況を鑑み、社会進出に出る以前の在学時から男女共同参画教育の推進を図り、社会デビュー後も生き生きと活躍できるスキルを学んでもらうとともに、女性の活躍には、男性の支援が欠かせないものであることから、男性への男女共同参加意識の醸成を図るため、男性を含めた学生や一般市民、勤労者にも同様に学んでもらうことを目的とする。

○政策・方針決定の場への女性の参画の拡大のため、市の審議会等における女性委員の割合を2020年までに30%にする。

○市の男女共同参画推進グループの構成員を増やし、市内小中学校や各種会合にて出前講座等を実施し、男女共同参画意識向上を目指す。

○若い女性が活躍することで企業も競争戦略として、役員・管理職への女性の登用促進を加速化していくことを目標とする。

連携団体

大田原商工会議所
国際医療福祉大学
大田原高等学校、大田原女子高等学校、黒羽高等学校

今後の課題

○本事業を一過性の事業とせず、今後も企業や学校と連携しながら継続させ、実現可能な男女共同参画社会を構築していく。

○アンケート結果を分析し、大田原市の新たな男女共同参画事業に反映させる。

事業の概要

【キャリアアップ講座】(延べ360名参加)

①映画上映会

目的 自分たちが産まれてきた意味や家族の絆、命の大切さ、人との繋がり、そして“生きる”ことを考えるきっかけづくり。

日時 8月9日(日) 12:30~16:20

場所 国際医療福祉大学 F棟101

対象 一般市民

参加者数 248人(男性39人 女性209人)

内容

映画「うまれる」とは、出産、死産、不妊、障害、胎内記憶など様々な経験をされた夫婦や家族の生の姿を映した、“生きる”ことを考えるドキュメンタリー映画。多くの親子が参加されました。

本事業には大学生・高校生8名がボランティアスタッフとして参加し、“大切な人に感謝の気持ちを伝えよう”をテーマに、「親子で作る絶品スコッチエッグレシピ」配布、「大切な人に贈る願いが叶うミサガの作り方」配布、「感謝の気持ちを伝える折鶴作り」等のミニイベントを企画運営しました。



②イクボス講座

目的 子育て中の社員を理解し、活躍を後押しすることができる上司「イクボス」の育成を促進し、女性も男性も子育てしながらも働きやすい職場環境の実現を図る。

日時 8月19日(水) 15:30~17:00

場所 トココ大田原3階 市民交流センター視聴覚室

対象 一般市民

参加者数 42人(男性26人、女性16人)

内容

テーマ:イクボス推進による人材力・生産力の向上

～人口減少社会・女性活躍時代の経営・マネジメント～

講師:NPO法人ファザーリング・ジャパン 代表理事 安藤哲也氏

イクメンが着実に増加する中で、職場におけるイクボスの存在が必要不可欠となっています。イクボスの必要性についてお話いただき、講座の後半にはグループワークを通して理想的な上司の対応の仕方など、イクボスになるための心構えやコツを学びました。



事業の概要

③ワークライフバランス講座

目的 家事・育児をしながら職場で活躍している女性の話を聞くことにより、ワークライフバランスの重要性を意識づける。

日時 11月21日(土) 10:30~12:00

場所 国際医療福祉大学 M棟101

対象 一般市民

参加者数 29人(男性4人、女性25人)

内容

テーマ:働く女性のワークライフバランス

講師:国際医療福祉大学保健医療学部言語聴覚学科助教 佐藤妙子氏

国際医療福祉大学病院看護部あかちゃんセンター副師長 嶋村寿江氏

コーディネーター:大田原市男女共同参画審議会委員長 藤沼久子氏

ワークライフバランスの実現のため、職場の第一線で活躍するおふたりに、自身の経験を踏まえながら、仕事と家庭を両立するためのポイントについてお話いただきました。主に、佐藤氏は「多様な働き方、生き方が選択できる社会」について、嶋村氏は「レジリエンスの重要性」についてお話いただきました。



④キャリアアップ講座

目的 人や企業の魅力を最大限に引き出す印象戦略について学び、ビジネス・ライフスタイルのステージを上げ、社会貢献する人財の育成を図る。

日時 12月5日(土) 14:00~16:00

場所 トコトコ大田原3階 市民交流センター視聴覚室

対象 一般市民

参加者数 41人(男性4人、女性37人)

内容

テーマ:60秒で人を惹きつける技術

講師:印象戦略家 ちとせ氏

自分から発信されている情報(表情・声・話し方など)を理想の形にコントロールし、自分の価値を高め、その価値を正しく伝えるための印象戦略。自分の魅力を最大限に引き出す方法、相手に好印象を与える自分の魅せ方について学びました。

また、自分の魅せ方を学ぶだけでなく、その学びを習慣に変える方法についてもお話いただきました。



事業の概要

【ワークショップ講座】(延べ283名参加)

①トークショー

目的 育児や家事をこなしながら職場においても活躍している講師の話聞くことにより、今後、就職や家庭を持つ世代に対し、職場内や家庭内での男女共同参画の重要性を意識づける。

日時 8月9日(日) 12:30~16:20

場所 国際医療福祉大学 F棟101

対象 一般市民

参加者数 248人(男性39人 女性209人)

内容

テーマ:キッチンからはじまる家族の絆

講師:料理研究家 コウケンテツ氏

料理研究家としてテレビや雑誌、講演会等で活躍されているコウケンテツ氏ですが、私生活では一男一女のパパとして積極的に子育てや家事をこなしています。子ども時代の食事の思い出から、家庭料理や食育への思いについてお話いただきました。また、子育て中心のライフスタイルの様子を、スライドショーでたくさん披露していただきました。



②男の料理教室

目的 父親が料理を学ぶことにより、男性の家事・育児の参画を促す。また、自身への健康に関心を持ち、食生活を充実させるなど、男性の自立を支援する。

日時 9月5日(土) 11:00~15:00

場所 トコトコ大田原2階 親子ふれあいキッチン

対象 子育て世代の男性

参加者数 18人

内容

テーマ:俺の出番だ! 満点パパごはん

講師:大田原ふるさと大使、銀座「みちば和食たて野」オーナーシェフ 舘野雄二郎 氏

和食の基本となる出汁の取り方、市販の惣菜(副菜)を主菜に変身させる驚きレシピ、面倒な揚げ物を簡単においしく上げるテクニックなど、男性でも簡単にできて家族が喜ぶ料理を教えていただきました。



事業の概要

③起業応援セミナー

目的 実際起業し活躍している女性の話を聞くことにより、一歩前に踏みだしたい、起業したい方を支援する。

日時 1月16日(土) 13:30~16:30

場所 前田牧場、ファーマーズカフェ 他

対象 起業を志す方

参加者数 10人(男性4人、女性6人)

内容

テーマ:夢をかなえる第一歩 ~成功者から学ぶ起業術~

講師:前田智恵子氏 ファーマーズカフェ・ミートショップ前田牧場経営

前田牧場(牛舎・イチゴハウス)、自宅(農家民泊受け入れ先)、カフェを見学しながら、起業し経営する上で必要となるノウハウや課題などを交え、企業から現在に至るまでをお話いただきました。



④市長と学生の懇談会

目的 本市の男女共同参画にともなう地域づくりについて市長と学生が懇談することにより、若者に地域づくりに対する興味を持たせ、かつ男女共同参画の推進を図る。

日時 2月8日(月) 14:00~15:00

場所 大田原市役所仮設庁舎A棟会議室

対象 本事業に協力及び参加した大学生及び高校生

参加者数 学生7人(男性4人、女性3人)

内容

テーマ:若者が考える男女共同参画社会

市長と国際医療福祉大学、大田原高等学校、大田原女子高等学校、黒羽高等学校の学生で

男女共同参画について意見交換をしました。市長からは現在取り組んでいる政策や男女共同参画の考え方についてお話がありました。学生からは「命・家族・子育て」、「ワーク・ライフ・バランス」、「女性活躍推進のために必要なこと」等について、率直な意見を出し合いました。若者の柔軟な考えを取り入れつつ、若者の価値観に合った取り組みも必要であると感じました。



【事業効果の検証】(アンケートによる)

- ・各講座においてアンケート実施
- ・市内3高等学校2年生(640名)、市内大学生(400名)、市内事業者(223社)に対し男女共同参画意向調査の実施 及び市内大規模事業者9社に対しヒアリングの実施。
- ・男女共同参画審議会委員による事業効果の検証会議の実施